

令和5年度京田辺市大学連携地域貢献研究事業研究概要一覧

研究テーマ	大学名・学部	研究者名	研究概要	備考
京田辺市における縁農ネットワーク形成～都市農地で育てる特産物と人財～	摂南大学農学部 応用生物科学科	特任助教 沼本 穂	未耕作地を利用した特産づくりを通じた本市の新しいコミュニティを創造するために、登録制ボランティアとのマッチングによってプロジェクトを推進する「縁農ネットワーク」の体制を構築するための基礎的研究を実施する。具体的には(1)商品開発に向けた栽培・加工実験の継続及び普及に向けた体制の構築、(2)マーケティングと販路形成、(3)ネットワーク構築とソーシャル・ビジネスモデル実装に向けた準備について実践的な研究活動を推進する。	
同志社大学におけるアントレプレナーシップ教育に京田辺市の地域課題解決を埋め込むための教育方法および教材の開発	同志社大学商学部	教授 太田原 準	京田辺市の「研究ニーズパンクテーマ」に掲載されている現状と課題の多くは同志社大学の学生によるソーシャルアントレプレナー活動によって解決可能と思われるが、従来型の学生プロジェクトは単発的なものであり、継続的に京田辺市の地域課題解決にコミットするための学内体制、教育方法および教材の開発は未着手の状態である。もし同志社大学におけるアントレプレナーシップ教育に地域課題解決実習を恒常的に埋め込めることができたならば、大学が立地する自治体としてのその魅力と優位性を長期的に高めるための知的インフラとなり得る。そのためには多方面からのアプローチが必要となるが、最初の取り組みとして本研究では、京田辺キャンパスで従来から実施されているローム記念館プロジェクトを発展的に再構築し、京田辺市の地域課題解決に当たる学生及び教員の拡充を実現し、毎年継続的にプロジェクトが稼働するための教育方法及び教材の開発を目的とする。	
遊休農地を使用した市民参加型の自然栽培農法の実践	京都府立大学 生命環境科学研究所	准教授 武田 征士	近年、化学農法に起因する環境問題や、食の安全・安心等の問題が指摘されており、農業分野では環境保全型農業への注目が高まっている。の中でも農業・化学肥料を使用しない「自然栽培」は、これから農業に必要な考え方・栽培技術の一つとされている。また、農業担い手不足等により、遊休農地・耕作放棄地が増加しており、その有効利用が求められる。そこで本研究では、京田辺市普賢寺地区の遊休農地・耕作放棄地を市民参加の自然栽培(無農薬・無化肥)農地として活用し、安心安全な農作物を自分の手で作る場を提供する。農作物は野菜の他、新たな地域特産となり得る小木果樹とする。さらに、農薬や化学肥料を使わない圃場の生物多様性調査を行い、自然に合わせた作物づくりを実証する。	
若中年層を対象とした骨格筋レジスタンストレーニングによる生活習慣病発症抑制効果の検討	同志社大学 スポーツ健康科学部	教授 北條 達也	若中年層の占める割合が大きい京田辺市住民人口構成の特徴を鑑み、骨格筋レジスタンストレーニングを介した脂質・糖代謝改善効果の解析を通して、同世代が将来抱える生活習慣病に起因した脳心血管病の罹患率低下に結びつける。	